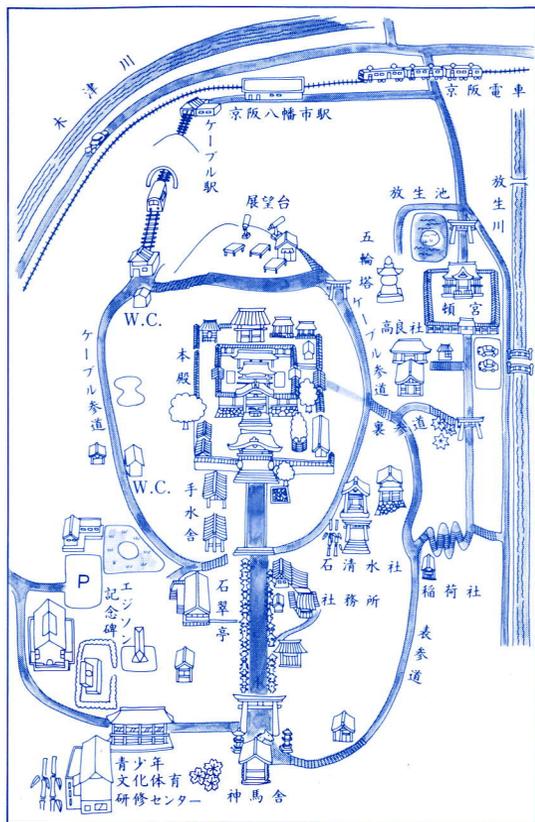




石清水八幡宮



交通

◎電車でお越しの場合

- ・JR京都駅より近鉄に乗り、丹波橋駅にて京阪に乗り換え、八幡市駅下車、計約三十分
- ・大阪淀屋橋駅より京阪にて八幡市駅下車、計約四十分
- ・八幡市駅よりケーブル(五分)及び徒歩(十五分)にて山上

◎車でお越しの場合

- ・名神高速道路大山崎インターより旧国道一号線約五分
- ・京滋バイパス久御山淀インターより旧国道一号線約十分



時をつなぐ、心をつなぐ。

平成の大修造

当宮では、「平成の大修造」として、長い年月を経て老朽化した歴史的文化財である境内諸建造物の修復事業に取り組んでいます。

遠い祖先から、大切に護り伝えられてきたこの伝統建築は、わが国の貴重な財産であり、誇りでもあります。

今を生きる私たちは、この財産を確実に次の世代へと受け継いでいかねばならないと考えています。

しかしながら、こうした文化財を維持し、また定期的に保存修理を施すには膨大な経費と年月を要するため、これら事業の完遂は、

広く国民の皆様にご理解とご協力を仰がねば到底なし得ないものであります。

なにとぞこの事業の文化的意義をご理解下さいましてお一人でも多くのご奉賛を賜りますようお願い申し上げます。

「平成の大修造」事業は、平成二十一年から
第二期工事業を開始しました

○工事期間 平成二十一年から平成三十年まで（予定）

○事業費 約十三億円

○主な工事 御本殿廻廊・若宮社・若宮殿社・狩尾社・東

西北各総門（以上国重要文化財）・南総門・
手水舎・頓宮等の諸建物修復工事

○奉賛方法

御守り授与所もしくは社務所にて承ります。
電話ファックス等でも承りますので、詳しくは下記までお問い合わせ下さい。

石清水八幡宮

〒614-8588 京都府八幡市八幡高坊30
TEL 075-981-3001
FAX 075-981-9808
<http://www.iwashimizu.or.jp>

御祭神

中御前 応神天皇
(第十五代)

西御前 比咩大神

東御前 神功皇后

〔誉田別尊〕

〔多紀理毘賣命
市寸島姫命
多岐津比賣命〕

〔息長帯比賣命〕

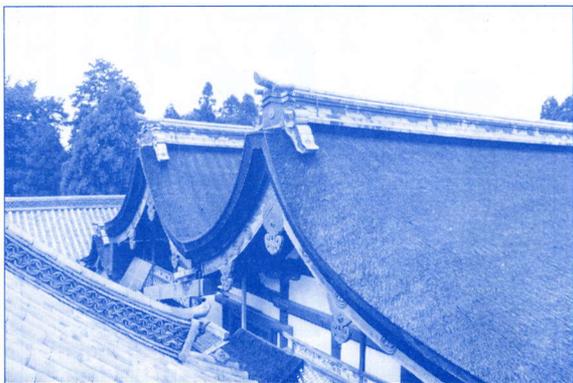


御神徳

八幡大神は男山に御鎮座され、都の守護神、国家安泰の神として、朝廷は元より広く国民に篤い崇敬を受けてまいりました。特に清和天皇の嫡流である源氏一門は、八幡大神を氏神としその信奉の念は格別で、全国各地に八幡大神を勧請しました。源義家は、自ら「八幡太郎義家」と名乗った事は有名です。以来、勝運の神・厄除開運の神として崇敬されてきました。特に当宮の厄除信仰の歴史は古く、今なお全国屈指の厄除の神社として、新春の厄除大祭を始め年間を通し参拝に訪れる方々は跡を絶ちません。

「世は変われども神は変らず」

八幡大神の御神徳は、まさに広大無辺であります。



社殿

貞観元（八五九）年木工寮権允橋良基は、時の清和天皇の御命令を受けて、この男山の頂に六宇の宝殿を建立し、順次「八幡造り」の社殿を完成させるに至りました。以来、造営十四度・修理十七度に及び、現在の社殿は寛永十一（一六三四）年徳川三代将軍家光公の御造営に依るものです。

檜皮葺の本殿は前後二棟から成り、その軒の接する所に織田信長公寄進の「黄金の樋」が架けられております。

本殿から幣殿・舞殿・樓門と続き、その周囲を約一八〇mに及び廻廊が囲んでおります。本殿をはじめ建物全てを丹漆塗で施し、随所に当時の名匠の彫刻が刻まれており、極めて壮麗な社殿であります。建物の全ては、国の重要文化財に指定されております。

平安時代始めの貞観元（八五九）年南都大安寺の僧行教は、豊前国（現大分県）宇佐宮にこもり日夜熱禱を捧げ、八幡大神の「吾れ都近き石清水男山の峯に移座して国家を鎮護せん」との御託宣を蒙り同年男山の峯に御神霊を御奉安申し上げたのが当宮の起源であります。そして朝廷は翌年同所に六宇の宝殿を造営し四月三日に御遷座されました。天慶二（九三九）年に起った平将門・藤原純友の乱の折には、朝廷より御請願があり八幡大神の御神威をもって速やかに平定されて以来、国家鎮護の社として朝廷の御崇敬は益々篤いものとなりました。天皇・上皇の行幸や御幸は、円融天皇（第六十四代）の御参拜以来実に二四〇度にも及び、伊勢の神宮に次ぐ第二の宗廟とも称されました。

男山は、木津・宇治・桂の三川の合流点を挟んで天王山と対峙する位置にあり、京・難波間の交通の要地であります。また、南北朝時代の大小の戦い羽柴秀吉と明智光秀の天王山の合戦等で良く知られる政治上の重要な拠点でもありました。この交通・政治上の要の地に御鎮座され、我が国を平和と繁栄に導く神として多くの人々に崇められ、現在では八幡大神を祀る神社は、全国津々浦々に約四万社にもなります。

明治初年には官幣大社に列せられ、男山八幡宮と改称されました。しかし、『石清水』の社号は創建以来の由緒深い社号であるため、大正七年に再び『石清水八幡宮』と改称され、現在に至っています。



石清水祭

石清水祭は、平安時代の貞観五（八六三）年より齋行されている祭儀で、石清水放生会とも称されました。

毎年九月十五日未明、御神霊は本宮より男山山麓の頓宮に渡御され、勅使（天皇の御使者）参向の下、国家安泰を祈る奉幣の儀、そして「生きとし生けるもの」の霊を慰める放生会が行なわれます。これらの祭儀は古の行幸に準じて行列をなし、上・下賀茂神社の賀茂祭・春日大社の春日祭と共に日本三大勅祭の一つとして齋行されています。

その祭典の作法・装束等全て平安朝の王朝絵巻を見る様で、日本の文化と歴史を眼の当たりにする動く古典とも云われる貴重なお祭りです。その荘厳優美を極める王朝絵巻の世界が、千年の流れを超えて雅やかに展開されます。



石造燈籠

社務所南側の書院右庭は、重森三玲翁作庭の枯山水です。庭内の六角形石燈籠は、鎌倉後期「永仁三年乙未三月日」（二九五）の刻銘があり、国の重要文化財に指定されています。

エジソン記念碑

発明王トーマス・エジソンは、白熱電灯を発明するにあたり、そのフィラメントの材料を世界中に求めました。その結果、日本の竹、中でも特に当宮境内の真竹が最も優れていることを実験を通して知り、この竹材を用いて始めて実用的な白熱電灯を完成させました。この歴史的偉業を永遠に顕彰する為、昭和九年に電気関係者の努力によって記念碑が建立されましたが、以来五十年の風雪を耐え、昭和五十九年には日本電気協会等関係者の熱意により新たに立派な記念碑が建立されました。